

養護教諭による高校生への性教育の実践と効果の検討

下 村 淳 子*

愛知県内の高校生に対して行った性教育の方法をまとめたレポートである。養護教諭が196名の生徒に性教育を行ったところ98%が「良かった」と答えた。また、その理由を彼らに尋ねたところ、養護教諭が彼らの気持ちに配慮したために「安心して学ぶことができた」と答えていた。以上の結果から次のことが明らかになった。私たちが高校生に性教育を行う場合は、事前準備を十分に行うことと、内容を十分に検討して性器教育に偏らないこと、コミュニケーションの大切さを理解できるような目的で行うことが重要である。

キーワード：性教育、高校生、養護教諭

I はじめに

近年、我が国では青少年による性行動の若年化が問題視されている¹⁾。インターネットや携帯電話の普及により、誤った性情報が氾濫し、援助交際や出会い系サイトなどの性産業が子どもたちの周辺に入り込んできた。このような社会環境の急激な変化によって、子どもたち自身が情報の善悪を判断し対処できるような性教育が必要になってきている。特に10代の人工妊娠中絶や性感染症の増加という母子保健に関わる健康課題については、「健やか親子21」²⁾の中の主要課題として多方面から様々な取り組みが行われてきた。しかしながら、2006年に出された中間報告では、10代の性感染症の罹患率は依然増加傾向にあり、取り組みの成果は未だ出ていない³⁾。

学校教育の中でも性教育は徐々に充実してきている。学校における性教育は、子どもの発達段階に応じたねらいを設定し、保健体育などの教科指導と関連させながら教育活動全体を通じて行うものとされている⁴⁾。特に性の関心が高まる高校生に対しては、異性を尊重する態度や性情報への対処の仕方、適切な意志決定や行動選択の必要性について指導するよう示されている⁵⁾。しかし、性教育という独立した教科がないことと、プライベートでデリケートな内容を扱うことから、多くの場合は保健体育の授業内で教える程度に

とどまっている⁶⁾。また、性教育を受けても「役に立たない」と感じている生徒も多く、教師が教えた内容と子どもたちが学びたい内容には違いが生じているという課題もある^{7,8)}。

一方、性教育の低年齢化が進むと同時に、教える内容や使用する教材が指導範囲を超えているという批判もある⁹⁾。このような状況をふまえて、学校で性教育を行うにあたっては、内容の精選や指導方法などについては十分に配慮したうえで実施することが重要である¹⁰⁾。

そこで、養護教諭が高校生に対して性教育を行う機会を得たことから、これらの実践を通して、高校生に性教育を行う上で配慮すべき事柄を明らかにしたので報告する。

II 研究方法

1 性の指導の実践

愛知県内の国立高等学校の2年生185名に対して、平成18年2月13日から3月13日までの毎週月曜日のホームルーム時間(50分間)に養護教諭が「性に関する保健講話」を実施した。これらの実践内容と実施に至る経緯を振り返った。

*愛知学院大学心身科学部健康科学科

(連絡先) 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12 E-mail: jshimomu@dpc.agu.ac.jp

2 実践後の評価

「性に関する保健講話」を受講した185名に対して、終了直後に「保健講話を受けた感想」を書いてもらった。感想文の作成にあたっては生徒らに個人の特定はしないこと、提出は自由意思とすることを伝えた上で回収できた169名(回収率：91.4%)の感想を分析した。

III 結果および考察

1 「性に関する保健講話」の概要

1) 「性に関する保健講話」を実施したきっかけと準備段階

平成18年1月、2年生担当の社会科教員から養護教諭に対して、「公民の授業でエイズを教材に取り上げたところ、生徒の知識のなさに危機感を感じている。生徒に正しい性の知識を伝えて欲しい。」との依頼があった。養護教諭としても日常の健康相談活動の実態

から性教育の必要性を強く感じていたので、依頼を受けた。養護教諭自身、性教育の必要性は感じていたものの、準備を行う時間が確保できない、何をどの程度教えるべきか自信が持てない、などの課題を感じていたことから、2年生の担任教師ら相談しながら、慎重に準備をすすめることにした。また、思春期の高校生に性教育を行うことから教職員のみならず保護者にも理解を得るために、性教育を実施すること、ねらいと方法を記した通知文を校長名で通知した。

具体的な準備内容は表1の通りである。主催者は養護教諭の所属している保健部と2年学年会にとし、ロングホームルームの時間(以下、LTと称す)を各クラス1時間づつ確保することができた。そこで授業のねらいや構成内容を検討しながら、指導用の教材として「思春期で変わる心と体 Teens' Health Note (第11版2005)」¹¹⁾と刈谷市保健所作成の冊子¹²⁾を保健所等から取り寄せた。

表1 養護教諭が事前に行った準備内容

<ol style="list-style-type: none"> 1. 性教育の実施方法を学ぶために指導者対象の研修会に参加した。 2. 生徒の教科内での学習内容と到達度を把握した。 3. 生徒の性に関するニーズをつかむため、事前にインタビュー調査をした。 4. 生徒の住む地域の感染症情報を収集した。 5. 授業担当者でない養護教諭が教壇に立つということから、あらかじめ学年会・保健部会・職員会議などで授業のねらい、意義、内容などを周知し、授業に対して理解を得た。 6. 性教育を養護教諭が実施することを、保護者に書面で通知した。 7. 保健所から性感染症情報が掲載されている小冊子を取り寄せた。
--

表2 性に関する保健講話の構成

<p>「性に関する保健講話」の指導案(略案)</p> <p>対象者 2年生 時間 1時間 場所 各ホームルーム教室</p> <p>【導入】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「性に関する保健講話」を実施したねらいを理解させる 2. 全国の高校生の性の実態と問題点を理解させる <p>【展開】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体や性に関するクイズを行い、知識の再確認を行う 2. 性感染症の罹患状況と感染経路を理解させる 3. 性関係を持たないコミュニケーションのあり方を考える <p>【まとめ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の体を大切にして生きることを理解させる 2. 困った時には周囲の大人に助けをを求めることを伝える <p>【課題】</p> <p>授業を受けて、気付いたこと感じたことなどをレポートにまとめる</p>
--

2) 実施内容

養護教諭による「性に関する保健講話」は、LTの時間帯に各クラス1時間ずつ、5クラスを5週間かけて実施した。指導内容の概要は表2のとおりである。この内容がすべてのクラスで同様に伝えられるよう、詳細な指導内容を記した保健講話「高校生のあなたに伝えたい性の話」の指導案(資料1)を作成した。これらの指導を通して、自分を大事にすることが最も重要なことで、よりよい人間関係作りのためにも大切であるというメッセージを伝えた。

3) 授業を行う上で配慮した事柄

高校生に性教育を行ううえで、特に配慮した点は以下のとおりである。養護教諭は準備段階で受けた研修とその資料¹³⁾をもとに試行的研究的に実践した。

(1) 2005年度に実施された「全国高校生の生活・意識調査」¹⁴⁾によれば、高校2年生での性経験は男子で19.6%、女子で28.5%であると報告されていることから、約7～8割の生徒に性関係はないと予測した。また、事前に行った聞き取り調査から、性行為・避妊などに偏った内容だと、大多数の生徒が不快に感じ、性教育自体にマイナスイメージを与えることから、「セックス」、「性交渉」、「性行為」などの直接的な表現は避け、「性関係」「コミュニケーション」という表現を用いた。

(2) 1週間に1クラスのペースで5週間かけて全5クラスを行った。毎回、生徒の反応や進め方を振り返りながら修正しながら、1週間かけて次の授業のための準備ができたので、徐々に授業改善ができた。

(3) 1週間に1時間だけの授業であったことから、養護教諭としての職務への影響は最小限で止めることができた。

(4) 性という最もプライベートな部分であること、思春期で最もこのテーマに対して神経質になる年代であることを考慮して、生徒個人を名指しして意見を発表させることは控えた。

(5) 性感染症や人工妊娠中絶を身近な問題として捉えてもらうために、地域固有の情報を入手して伝えた。

2 実践後の評価

1) 授業実施後の生徒の感想

「性に関する保健講話」の終了後に受講した2年生169名から受講後の感想などを聞いた。

受講した評価をみると、98%の生徒が、「とても良かった」と「良かった」と回答した(表3)。「良くなかった」と回答した生徒は2名で、大部分の生徒は良いと感じていた。その理由をみると「全国の高校2年生の現状がわかった(男)」「とても大事な話だからもっと聞きたかった(男・女)」などが多く、性の情報

表3 「性に関する保健講話」後に実施した生徒の評価

	人数 (%)			
	とても良かった	良かった	良くなかった	合計
男子	38 (76.0)	11 (22.0)	1 (2.0)	50 (100.0)
女子	93 (78.2)	25 (21.0)	1 (0.8)	119 (100.0)
合計	131 (77.5)	36 (21.3)	2 (1.2)	169 (100.0)

表4 「良かった」と感じた理由 (一部抜粋)

- ・全国の高校2年生の現状がわかった(男)
- ・とても大事な話だからもっと聞きたかった(男・女)
- ・いやらしい感じを受けなかった(女)
- ・性器の名前が出てこなくて良かった(女)
- ・中学校の教科書のような性器の図が出てこなくてよかった(女)
- ・女の先生で良かった(女)
- ・性はいやらしいものではなかったことがわかった(女)
- ・性教育のイメージが変わった(女)
- ・セックスという言葉を知ると抵抗があるので、今回は抵抗なく先生の話の聞いた(男・女)
- ・性関係という言葉なら、いやらしくなくて良かった(男・女)
- ・みんなの前で指名されなくてよかった(女)
- ・最初に先生が「指名しない」と言ったので安心して受けることができた(男・女)

表5 「性に関する保健講話」を受けた感想（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> ・性の話はこれまでも何度も聞いていて、自分は十分知っているつもりだったが知らないことも多かった（男・女） ・クイズが難しかった（男） ・知っていると思っていたことが間違っていて驚いた（男） ・安易にパートナーを変えることはよくないと知った（男・女） ・自分の住んでいる地域にも性感染症にかかっている人が多くて驚いた（男・女） ・エイズは身近にもいるのだと知った（男・女） ・1時間は短いと感じた（男・女）
--

表6 「性に関する保健講話」に対する要望と取り上げてほしい内容（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> ・性の話は大事なので頻繁に教えて欲しい（男・女） ・もっと詳しく性について学びたい（女） ・もっとシリーズで何回かに分けて行ってほしい（男・女） ・結婚、妊娠といった今後の生活に必要な情報を教えて欲しい（男・女） ・性感染症の予防について（男・女） ・性に関する暴力・セクハラ・DVについて（男・女） ・正しい避妊の仕方（男・女）

に生徒の関心が高く、正しい知識を知りたがっている現状も伺えた（表4）。「性関係」という表現に関するコメントも多く見られ、「いやらしい感じを受けなかった（女）」「セックスという言葉を聞くと抵抗があるので、今回は抵抗なく先生の話の聞けた（男・女）」という意見が多かった。また、指導方法にふれた意見も多く、「みんなの前で指名されなくてよかった（女）」や「意見を言わずに済んだので、真剣に自分のこととして考えることができた（男・女）」「質問されたらどう答えたらよいかわからず不安だった（女）」など、普段の授業ではよくみられる意見表明の機会がなかったことに安堵している様子が見られた。

感想では「クイズが難しかった（男）」、「知っていると思っていたことが間違っていて驚いた（男）」、「自分の住んでいる地域にも性感染症にかかっている人が多く驚いた（男・女）」、「性感染症やエイズは身近な問題として捉えることができた（男・女）」などの地域の情報によって、関心がなかった生徒に対しても、自分の問題として受け止めさせることができた（表5）。生徒の大半が「性の話はこれまでも何度も聞いていて、自分は十分知っているつもりだったが、実は知らなかった情報もあったことを知った」と認識していた。教科「保健」以外でも養護教諭による性教育は、わずか1時間だけであったが、概ね効果があったと考えられる。

今後の希望についても「性の話は大事なので頻繁に教えて欲しい（男・女）」、「もっと性について学びたい（男）」、「結婚、妊娠といった今後の生活に必要な情報を教えて欲しい（男・女）」などの意見が大半を占めていた（表6）。また、今後教えて欲しい内容は「性感染症の予防について（男・女）」、「性に関する暴力・セクハラ・DVについて（男・女）」、「正しい避妊の仕方（男・女）」の3種類が大半を占めていた。

い（男）」、「結婚、妊娠といった今後の生活に必要な情報を教えて欲しい（男・女）」などの意見が大半を占めていた（表6）。また、今後教えて欲しい内容は「性感染症の予防について（男・女）」、「性に関する暴力・セクハラ・DVについて（男・女）」、「正しい避妊の仕方（男・女）」の3種類が大半を占めていた。

2) 実施上の評価

中央教育審議会初等教育中等教育分科会では性教育の基本的な考え方として「社会的責任を取れない子どもの性行為は適切でない」としており、心身の機能の発達や行動を制御する力、自分や他者の尊重の心を育むといったコミュニケーション能力を高めるような性教育を行うよう指示している¹⁵⁾。このように、性教育は単に生殖のしくみや性器の名称を学ぶものではなく、人としてどう生きるべきかとする生と性について学ぶ教育といえる。しかし、このような生き方やコミュニケーションのあり方を教えることは難しく、学生時代に十分な養成教育を受けてきているとはいいがたい。また、他の教員よりも専門的な教育を受けてきているはずの養護教諭ですら、「性教育」は必要な授業であると感じつつも、最も難しい授業であるとも述べている⁷⁾。必要性を感じながらも実施に踏み出しにくい背景には、このような指導方法の難しさや到達目標の高さ、授業者に対する研修機会の少なさなども影響していると考えられる。

また、性教育は教科内での指導だけにとどまらず、

学級活動や学校行事など、あらゆる教育の機会を通じて、すべての教職員で実施することが重要である。特に特別活動などでは学級担任よりも養護教諭や学校医等の専門家が実施する方がより効果的であるという指摘もある¹⁶⁾。養護教諭の職務の中にも保健学習や保健指導を行うことは明記されており¹⁷⁾、保健の授業を行っている養護教諭は小学校40%、中学校14%程度あるのに比べ、高等学校ではわずか3.3%にすぎない¹⁸⁾。このことからみても、高等学校の養護教諭は単独で授業を行うよりも、他の教員と協力しながら専門性を生かせる分野において部分的に担当していることが伺える。特に性教育の分野は養護教諭らによる学校外の人的ネットワークを活用することも重要といわれている¹⁹⁾。実際に看護学生を高等学校に招き、少人数で高校生の質問に答えるピアカウンセリングによる性教育²⁰⁻²³⁾や、高校生が自らの興味関心のあるテーマを選んで学ぶカフェテリア方式による性教育²⁴⁾なども効果をあげていた。

今回の高校2年生を対象に行った性教育「性に関わる保健講話」は養護教諭が指導者として行ったものである。受講者の評価をみても9割以上が「とても良かった」、「良かった」と肯定的な評価をしており、その理由の多くは内容そのものよりも、授業の進め方に關するものであった。高評価に結びついた「授業の進め方」は、事前に参加した研修で学んだスキルであり、このことからみても、指導者への研修が実践の良否に影響したと考える。特に思春期の高校生の持つ羞恥心や関心度の温度差に気づくことができ、受講者である生徒の気持ちに十分配慮することの重要性を認識した上で準備したことが功を奏したといえる。また、生徒のニーズと教師側のニーズの差を埋めるために生徒の実態をよく知る担任教員らと相談し合って内容を精選した。その他にも、地域に特化した情報や同じ世代の高校生の情報など、生徒が身近な問題として捉えることのできるようデータに基づく情報を調べ、伝えたことで、指導効果がさらに高まり、生徒は理解を深めていた。

以上のことから、養護教諭が高校生に性教育を行う場合は単に知識を教えるだけでなく、社会人としてコミュニケーションの大切さを理解できるようにすること、そのための準備として養護教諭ならではの情報収集能力を生かして生徒の興味・関心を引くことのできる資料を収集すること、授業では生徒の気持ちに十分に配慮してすすめることなどが性教育の効果に影響することが明らかとなった。

IV おわりに

本実践の結果、以下の点が明らかになった。

愛知県内の高校生に対して思春期の高校生の気持ちに配慮して性教育を行ったところ、98%が「良かった」と答えていた。高評価の理由は、「恥ずかしくなかった」ので「安心して学ぶことができた」としており、養護教諭の受講者への配慮が性教育の効果に影響を及ぼしていた。このことから、高校生に性教育を行う場合は、単に知識を教えるような知識伝達型の授業ではなく、社会人としてコミュニケーションの大切さを理解できるような目的とすること、そのための準備として養護教諭ならではの情報収集能力を生かして生徒の興味・関心を引くことのできる資料を収集すること、授業では生徒の気持ちに十分に配慮してすすめること、などが重要であることが明らかになった。また、実践の前段階として養護教諭への研修機会の拡大と参加しやすい条件整備の充実も重要であることが明らかとなった。

文 献

- 1) 財団法人日本性教育協会 (2007). 「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告 小学館 30-31
- 2) 「健やか親子」公式 HP: URL <http://rhino.med.yamanashi.ac.jp/sukoyaka/index.html>
- 3) 「健やか親子21」推進検討会 (2006). 「健やか親子21」中間評価報告書 8-11
- 4) 文部科学省: 学校における性教育の考え方・進め方、ぎょうせい (2005).
- 5) 高等学校学習指導要領 (1999). 保健 文部省 101-103
- 6) 小林由加利他 (2003). 高校における性に関する授業について 愛知教育大学研究報告52, 45-52
- 7) 徳田修司他 (2005). 養護教諭の健康教育への積極的参加について—現状と課題— 鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編56, 25-42
- 8) 池田かよ子他 (2003). 高校生の生活と性に関する意識調査—1984年の調査との比較(性交経験の有無とその背景を中心に)— 新潟青陵大学紀要3, 141-159
- 9) 小田切明德 (1992). 性器教育は何故批判されるのか性をしなやかに かもがわ出版 77-79
- 10) 中央教育審議会初等教育中等教育分科会 (2006). 平成18年中央教育審議会初等教育中等教育分科会「教育課程部会審議経過報告」, 30
- 11) 財団法人日本母子衛生助成会 (2005). 思春期で変わる心とからだ Teens' Health Note (思春期保健教材) 1-20
- 12) 衣浦東部保健所 (2006). 衣浦東部保健所情報誌くりっぶ碧 (みどり) 第5号

- 13) 木原雅子 (2005). 学校における性教育の課題と対応
平成17年度児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修 97-113
- 14) 木原雅子他 (2005). 高校生の性経験者の割合 全国高校生の生活・意識調査 全国高等学校 PTA 連合会
- 15) 中央教育審議会初等教育中等教育分科会 (2006). 教育課程部会審議経過報告 30
- 16) 財団法人日本学校保健会 (1992). エイズに関する指導の機会と進め方 エイズに関する指導の手引 12-17
- 17) 財団法人日本学校保健会 (2004). 保健主事の手引〈三訂版〉 14-15
- 18) 全国養護教諭連絡協議会 (2009). 養護教諭の職務に関する調査 瑞星 6号, 116-130
- 19) 財団法人日本学校保健会 (2001). 実践力を育てる中学校保健学習のプラン —新学習指導要領に基づく授業の展開—
- 20) 入江晶子他 (2005). 高校生を対象とした看護学生による健康教育実施の試み 聖隷クリストファー大学紀要13, 115-122
- 21) 弓削美鈴 (2006). ピアカウンセリング活動を支援して足利短期大学研究紀要26, 135-141
- 22) 大家さとみ他 (2006). 性教育におけるピアエデュケーションの短期的効果 —高等学校での性教育の実践を通して— 学校保健研究48 (1), 32-45
- 23) 前田ひとみ他 (2007). 高校生を対象とした大学生による思春期ピアカウンセリングの評価 1 南九州看護研究5-1, 11-18
- 24) 牛山美奈他 (2008). 工業高校生が望む性教育のテーマの検討 —カフェテリア方式による実践の効果— 第55回日本学校保健学会講演集 475

最終版平成21年12月25日受理

資料1 「性に関する保健講話」指導案

高校生のあなたに伝えたい性の話

1. 対象高校2年生
2. ねらい
 - (1) 性に関する知識を学ぶことの重要性を理解し、性に関わる問題に自ら対処できる能力を養う。
 - (2) 安易な性関係によってもたらされる健康被害について理解する。
 - (3) 性差を理解することで思いやりの心をはぐくむ。
3. 学習時間ロングタイム（1時間）
4. 実施場所ホームルーム教室
5. 展 開

過程	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点
導入 5分	最近の高校生の実態と性に関わる健康問題を知る。保健講話の目的を伝える。	説明1 ・今、なぜ性教育が必要なのか ・エイズ・性感染症・十代の人工妊娠中絶が増加している現状をグラフを使って考える	レジメを配布する
展開 30分	性の問題はコミュニケーションの問題であることを理解させる エイズを含む性感染症について教科指導で受けた学習内容の復習をする。	作業1 1. ○×の二者択一のクイズを行う。問題は、性感染症、エイズ、男女の性差など保健の教科書で扱われる基本的な問題と、雑誌などに書かれている間違っただ俗説を混ぜて作成する。 説明2 1. クイズの解説。 2. 性感染症、エイズ、男女の性差について解説をする。 3. 全国高等学校 PTA 連絡協議会が実施した調査から高校生の現状を捉える 4. 高校生の性行動の特徴「早期化」「多数化」「無防備化」の実態の説明 5. 「寂しさをまぎらわす」「目の前の問題から逃げる」こうした理由が若年者の性行動につながる。 説明3 性感染症の伝搬経路について図を使って説明する。現在の交際相手は性感染症に罹患してなくても、以前に交際していた相手は大丈夫だったのだろうか？そのことを確認できない以上、安易に性関係を持つべきではない点を強調する。責任取れない高校生は安易に性関係を持つべきではなく、一日でも遅くすべきであることを伝える。	クイズの問題は教科指導の内容を参考にしながら選択する。あまり専門知識にならないようにする。全国調査のなどの実態でもよい。 性感染症伝搬の図を掲示する
まとめ 15分	性の問題は生き方の問題でもある。生徒一人一人が真剣に考えることが重要であることを理解する。	説明4 「思春期で変わる心と体 Teens' Health Note（第11版2005）」にも書かれているので各自で復習しておく。性について正しい認識を持って、よりよい人生を送って欲しいことを伝える。 作業2 今日の保健講話の中で「印象に残ったこと」について感想を書く。	「思春期で変わる心と体 Teens' Health Note(第11版2005)」を配付する。

Survey and Evaluation of the Sex Education for High School Students by Yogo Teachers

Junko SHIMOMURA

Summary

This is a report on the sex education which was conducted by yogo teachers to the 196 high school students in Aichi Prefecture. When yogo teachers gave it to them, 98% of the students answered they felt good. And when asked the reason for that, they said they could learn it with ease because yogo teachers paid close attention to their feelings.

Through their response, we can conclude that we should study about it fully beforehand, be careful not to put a special emphasis on the genitals and make them understand the importance of communication between them.

Keywords: sex education, high school students, Yogo teachers